

- 《履修上の留意事項》
1. 授業資料を配付する場合には、重要ポイントなどをメモとして適切に書き留めること。
 2. 配付資料に基づいて授業を進行する場合もあるので、必ず出席すること。なお、授業を受講しない者には配付しない。
 3. 授業終了後、授業内容をまとめる習慣を身に付けるように努めること。

《担当者名》 教授 / 石井 久淑 教授 / 永野 恵司 助教 / 藤田 真理

【概要】

人体機能科学（生理学担当）では、口腔機能（感覚、運動及び自律機能）の特色とそれらの調節系（特に神経系）について学ぶ。人体機能科学（微生物）では、環境中から人体まで様々な場所に生育する微生物の種類、役割及びそれらの機能について学ぶ。

【学修目標】

（生理学担当）

- 口腔感覚の種類、感覚装置及び神経機構を説明する。
- 咀嚼（主として顎運動）に携わる筋肉、それらの作用及び調節機構を説明する。
- 嚥下や嘔吐に携わる器官、それらの作用及び調節機構を説明する。
- 唾液腺の種類、唾液分泌機構及び唾液中の成分の働きを説明する。
- 発声及び構音の仕組みについて説明する。
- 言語中枢について説明する。

（微生物学担当）

- 多種多様な微生物の生育環境について説明する。
- 微生物の種類や大きさについて説明する。
- 常在微生物について説明する。
- 有益な微生物について説明する。
- 微生物学の歴史上重要な人物の業績について説明する。
- 話題の感染症について説明する。
- 感染症の制御について説明する。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|--------|-----------|--|-------|
| 1 | 口腔機能のあらまし | 口腔機能を学ぶうえでの生理学の重要性について理解する。 口腔の感覚、運動及び自律機能について理解する。 | 石井 久淑 |
| 2 | 口腔感覚 | 口腔感覚の感覚装置について理解する。 口腔の体性感覚について理解する。 口腔の特殊感覚（味覚）について理解する。 | 石井 久淑 |
| 3 | 咀嚼と顎運動 | 咀嚼運動の特色について理解する。 咀嚼運動（顎運動）に携わる筋肉（咀嚼筋）の種類とそれらの作用について理解する。 咀嚼運動（顎運動）の神経機構について理解する。 | 石井 久淑 |
| 4 5 | 嚥下と嘔吐 | 嚥下と嘔吐運動の特色について理解する。 嚥下と嘔吐運動に携わる器官とそれらの作用について理解する。 嚥下と嘔吐運動の神経機構について理解する。 | 石井 久淑 |
| 6 | 唾液分泌 | 唾液腺の種類と唾液分泌の特徴について理解する。 唾液中の成分とそれらの働きについて理解する。 唾液の分泌様式について理解する。 | 石井 久淑 |
| 7 | 発声と構音 | 発声と構音のしくみとそれらに関連する器官について理解する。 | 石井 久淑 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|----------------------|--|----------------|
| | | 言語音声の特徴について理解する。 言語中枢について理解する。 | |
| 8 | 中間試験 | 第1回から第7回までの講義内容の試験を行う。 | 石井 久淑 |
| 9 | 微生物概論 身近な微生物1（演習） | 微生物の種類とその特徴、生育環境について理解する。 身近な微生物（発酵食品に利用されている微生物など）を列挙し、調べる。 | 永野 恵司 藤田 真理 |
| 10 | 身近な微生物2（演習） | 身近な微生物（発酵食品に利用されている微生物など）を培養し、微生物の存在を実感する。 微生物を観察し、形態的特徴を調べる。 | 永野 恵司 藤田 真理 |
| 11 | 身近な微生物3（演習） | 発育させた身近な微生物を観察し、形態的特徴を調べる。 身近な微生物の、人体への影響（有益性）を調べる。 | 永野 恵司 藤田 真理 |
| 12 | 身近な微生物4（演習） | 演習で調べたことをレポートとしてまとめる。 | 永野 恵司 藤田 真理 |
| 13 | 話題の感染症1 | 例示する話題の感染症について理解する。 話題の感染症について調べる。 | 永野 恵司 藤田 真理 |
| 14 | 話題の感染症2 | 例示する話題の感染症について理解する。 話題の感染症について調べる。 | 永野 恵司 藤田 真理 |
| 15 | 感染症の制御 | 感染症の制御について理解する。 生体防御機構について理解する。 | 永野 恵司 藤田 真理 |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

生理学担当分は前期中間試験（100％）とし、60％以上を合格とする。

微生物学担当分は、レポート提出（30％）および前期定期試験（70％）とし、合計が60％以上を合格とする。

・試験終了後、ホームページ等により模範解答を発表するので確認すること。

【参考書】

「ビジュアル生理学・口腔生理学」学建書院

「基礎歯科生理学」医歯薬出版

「口腔微生物学・免疫学」医歯薬出版

「シンプル微生物学」南江堂

【学修の準備】

予習として、各項目の授業範囲を把握し、専門用語の意味を理解しておく（80分）。

復習として、講義ノートを用いて、理解を深める（80分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を人体機構科学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を人体機構科学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を人体機構科学の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

石井 久淑（歯科医師）、藤田 真理（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験のある歯科医師が、基礎科目と歯科臨床科目との関連性を明確化した講義を行う。